

MATSUDOING 2050 まちづくりデザインマップ 003案

大スケール

「江戸川の河川空間」と「松戸駅周辺地区」のスケール

中スケール

「新拠点ゾーン」と「松戸駅前ゾーン」のスケール

小スケール

新拠点ゾーン内の「南側(公共施設)ゾーン」と「北側(商業)ゾーン」のスケール

(仮称)MATSUDOING2050 時空間ゾーニング

3つのスケール



国土地理院「地理院地図(淡色版)(平成26年提供開始)」を元に一部加工して作成

(1)「(仮称)MATSUDOING2050 時空間ゾーニング」という全体の捉え方

松戸駅周辺地区全体の時空間を3つのスケール(大・中・小)に分けて考えていくことを提案します。

- 1)大スケール:「江戸川の河川空間」と「松戸駅周辺地区」のスケール
- 2)中スケール:「新拠点ゾーン」と「松戸駅前ゾーン」のスケール
- 3)小スケール:新拠点ゾーン内の「南側(公共施設)ゾーン」と「北側(商業)ゾーン」のスケール

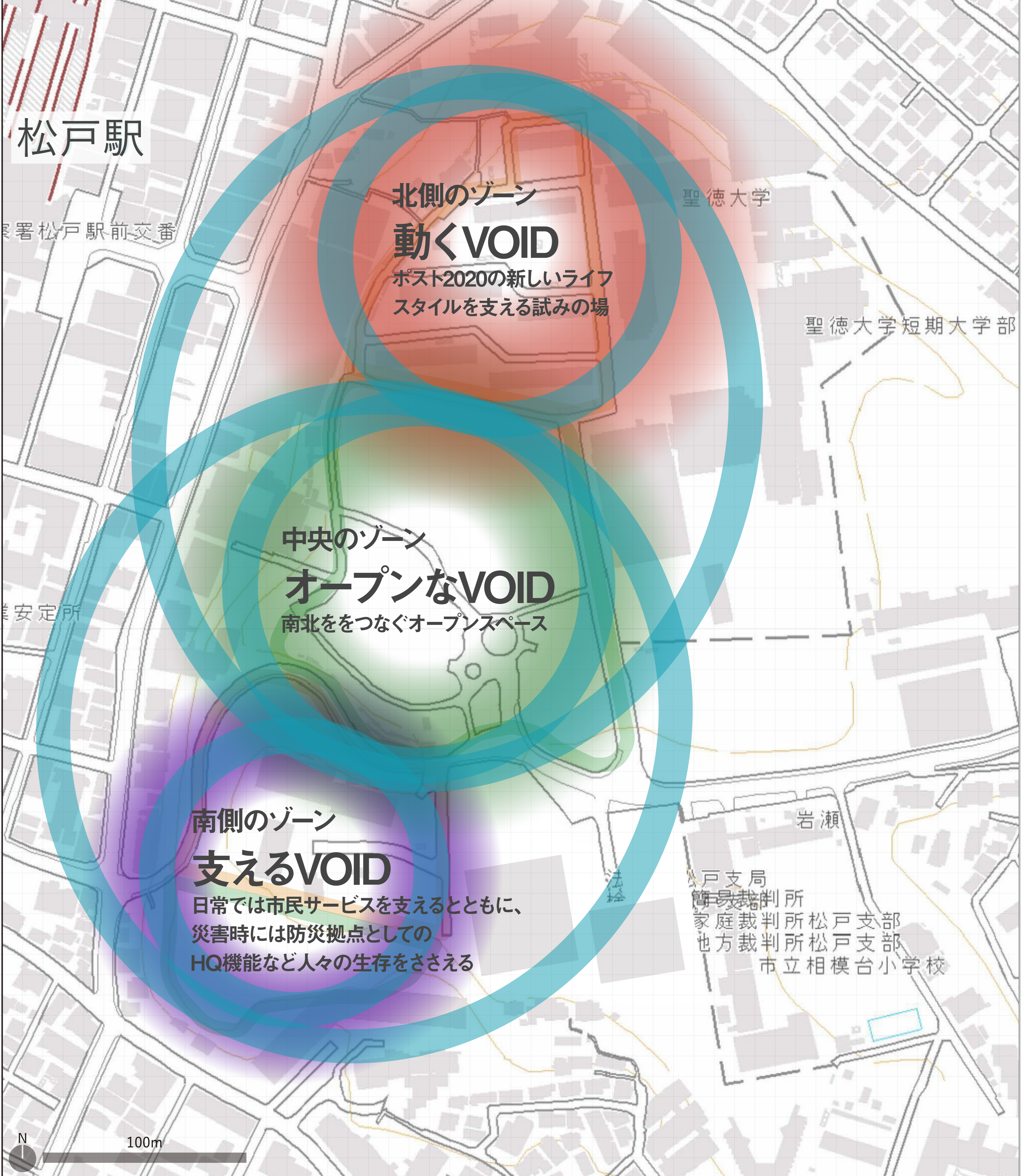
3つのスケールについてそれぞれ、

前者は長い時間のなかであまり動かない、計画的な使い方がなされる時空間、

後者は長い時間のなかで動いていく、暫定的な使い方である余白のような時空間、として互いに支えあうような関係として捉えていきます。

(仮称)MATSUDOING VOID

3つのVOID



(2)戦略的拠点「(仮称)MATSUDOING2050 VOID」の設定

今後「(仮称)MATSUDOING VOID(余白)」と呼んで以下のように捉えていくことを提案します。

- 1)「まちの中心でもあり、まちへ波及していく繋がり」の起点
- 2)「公/私やON/OFFを切り替え可能な透明なシンボル空間」
- 3)「時間軸の中で動いていく、創造的な余白」

具体的にはこのゾーンを以下のように「3つのVOID」として位置付けることを提案します。

- 1)北側のゾーン:ポスト2020の新しいライフスタイルを支える試みの場としての「動くVOID」
- 2)中央のゾーン:南北をつなぐオープンスペースである「オープンなVOID」
- 3)南側のゾーン:日常では市民サービスを支えるとともに、災害時には防災拠点としてのHQ機能など人々の生存をささえる「支えるVOID」